



No.48

愛宕山の天狗伝説

篤胤歌碑

昔々、愛宕山を岩間山と呼んでいた頃、天狗が棲んでいると伝えられていました。この「天狗伝説」を世に広めてくれた人物が、国学者「平田篤胤」です。江戸時代の終わりの頃、文政五（一八二二）年に著書『仙境異聞』が出版され、岩間山で修業する天狗たちの様子が詳しく紹介されました。このことがきっかけで岩間山が江戸市中の評判になり、岩間山神域の愛宕神社への参詣者が増大、繁栄したとも言われています。

篤胤は岩間山で修業中の天狗小僧、寅吉を自宅へ住ませ、天狗修業について詳しく聞き、その修業ぶりを紹介しました。江戸下谷五条天神で遊んでいた寅吉は、岩間山の「大天狗杉山僧正」により岩間山へ連れてこられ、十三天狗と共に日本古来の山岳信仰、山伏、修験者のな修業、断食、医療、薬の処方まで会得したようです。時は過ぎ、平成十二（二〇〇〇）年に、岩

間町の町おこしのため、愛宕山の天狗にまつわる「悪態まつり」「天狗伝説」を町民に知ってもらおうと、さまざまなイベントが催されました。その機運の盛り上がりの中で、多くの町民をはじめ町内外関係者から寄付を募り、平成十三年一月、二十一世紀の幕開けに、愛宕神社参道百かぎの石段下に「篤胤歌碑」が建立されました。碑には寅吉が篤胤の自宅から岩間山へ修業に戻る時、はなむけとして詠んだ歌五首が刻まれ、裏面には「篤胤歌碑」の由来が事細かく刻まれています。奇しくもこの年、岩波文庫から『仙境異聞・勝五郎再生記聞』が出版され、一般に読み易く提供されました。そして昨年『現代語訳仙境異聞』『天狗にさらわれた少年抄訳仙境異聞』等が出版され、「幽界研究者・平田篤胤」ブームがにわかに広がりつつあります。二〇〇年前の岩間山に繰り広げられた天狗の世界を「篤胤歌碑」は今に伝えているのです。

（市史研究員 川崎史子）



篤胤歌碑